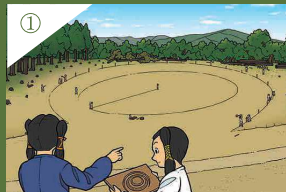
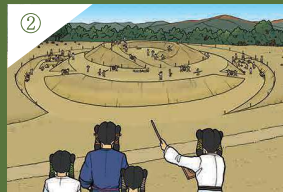


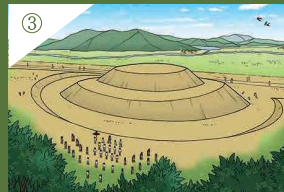
イラストで見る「兜山古墳が出来るまで」



① 現場での検討と設計に基づいた準備作業



② 堀割の排土を内側に盛り上げて墳丘を整形



③ 完成直後(葬送儀礼後)の古墳

兜山古墳の施設案内



① 駐車場・トイレ
(史跡南西隅)



② 休憩スペース



③ 古墳中段へ至る
見学者用スロープ



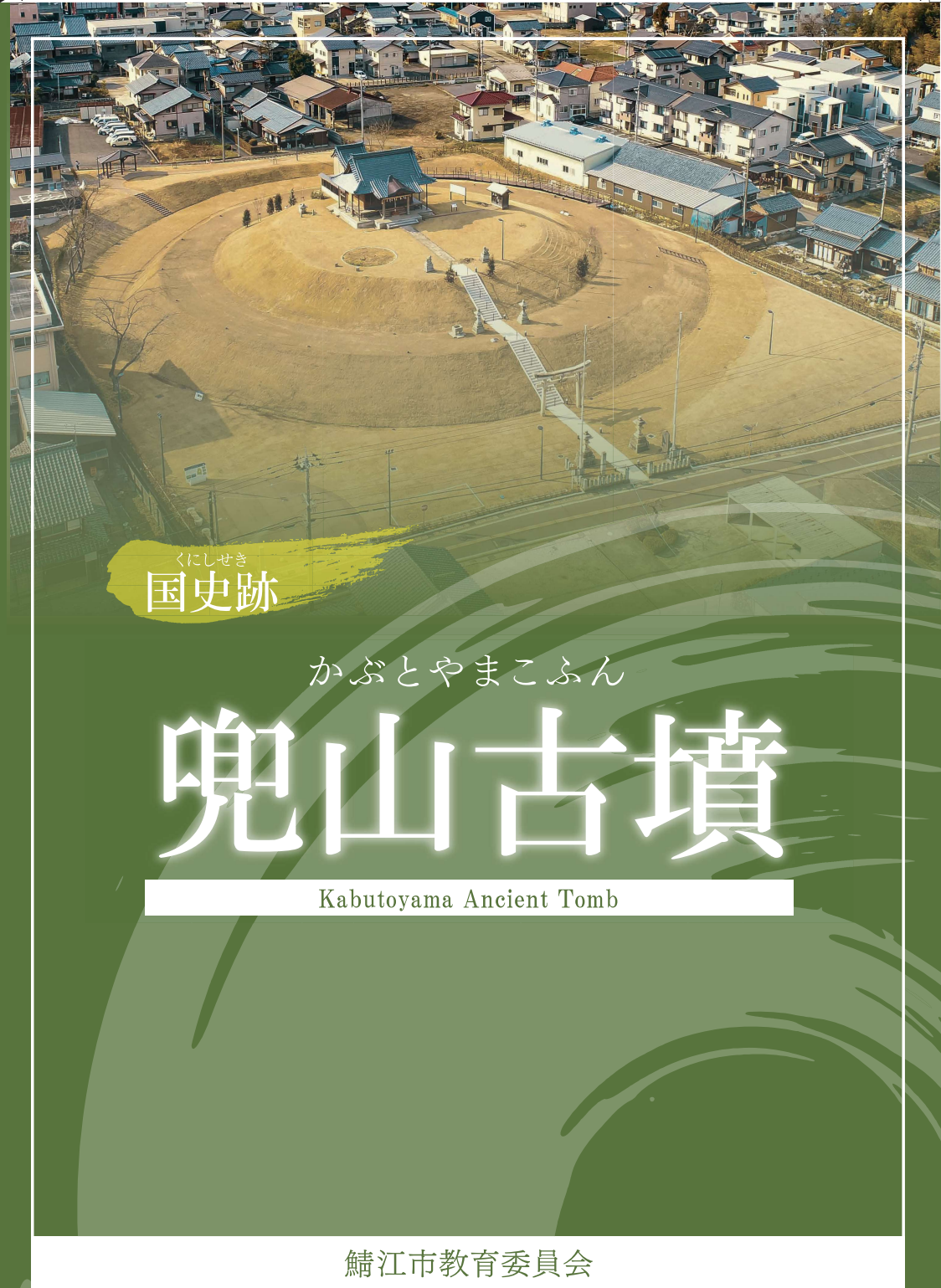
アクセス

- 歩 福井鉄道神明駅から徒歩3分
- 歩 北陸線 北鯖江駅から徒歩15分
- 車 北陸自動車道 鯖江ICから車で10分

発行元・お問合わせ先

 鯖江市教育委員会文化課

福井県鯖江市長泉寺町1-9-20 鯖江市まなべの館内
TEL:0778-51-5999 Eメール:sc-bunka@city.sabae.lg.jp



くにせき
国史跡

かぶとやまこふん

兜山古墳

Kabutoyama Ancient Tomb

鯖江市教育委員会

国指定史跡「兜山古墳」は、福井県鯖江市神明町2丁目に所在する直径70mを測る北陸最大級の円墳です。概ね5世紀頃に築造されたものとみられ、鯖江台地を中心とする地域の首長墓と推測されています。墳丘上に八幡神社が鎮座していることから、市街地内にありながらも破壊をまぬがれた貴重な文化財です。



基本データ(史跡指定説明)

種 別：史跡
名 称：兜山古墳
所在地：福井県鯖江市田所町西中屋敷
指定年月日：昭和52年8月10日
管理者：鯖江市

概要：鯖江市と福井市にまたがる経ヶ岳の麓から市南部の王山にかけて南北に延びる鯖江台地北部のゆるやかな東側斜面に築造されている大規模な円墳。二段築成で、下段墳丘の基底径は最大70m、上段墳丘径約47m、墳頂平坦面径約30m、高さ9m以上に復元され、円墳としては北陸地方最大級の規模を有しています。墳丘の周囲には幅15～17mの堀割が巡り、とくに北西部では旧状がよく残されています。墳丘上において葺石・埴輪は確認されておらず埋葬施設に関しても不明ですが、墳丘形態や近隣の兜山北古墳の築造年代、さらに越前の古墳時代の造墓活動状況などから判断して概ね5世紀代に築造されたものと推測され、雄大なその規模からみて被葬者は鯖江台地を中心とした地域の首長とみられます。

(参照『月刊文化財』1977年6月号)

調査個所と墳丘復元図



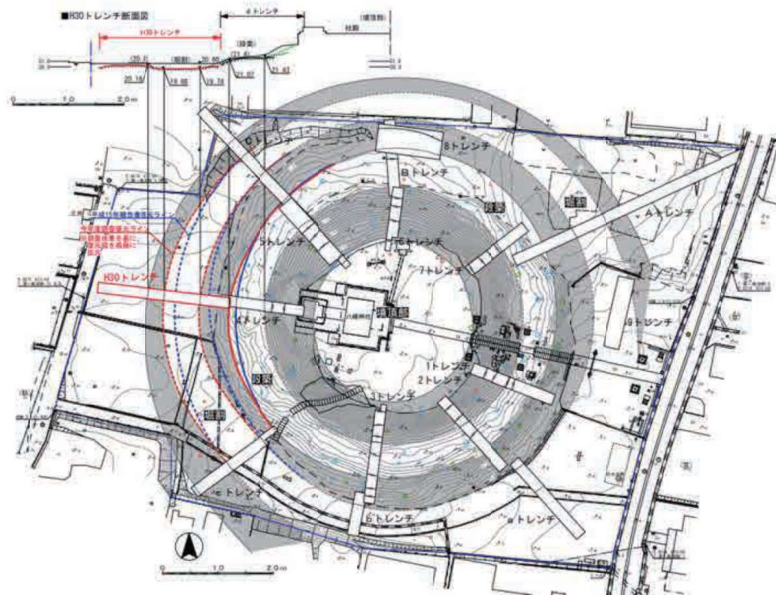
発掘調査の様子(H30)



掘削の完掘状況(H30)



上段墳丘の土層堆積状況(H13)



兜山古墳群



兜山北古墳から出土した須恵器



6世紀ごろの鯖江台地の様子



兜山古墳には誰が埋葬されているのか

兜山古墳は、兜山北古墳(全長約23m・帆立貝形・6世紀前半頃)と兜山南古墳(詳細不明)から成る兜山古墳群の盟主墳です。本古墳群を含む鯖江中央部には、天神山古墳群・長泉寺山古墳群・王山古墳群などがあり、弥生時代中期から古墳時代後期まで連綿と造墓活動が営まれました。この地域が、越前を南北に行き交う陸上交通や河川交通を押さえる重要な位置を占めていることや、兜山古墳の規模が前方後円墳ではないものの当地域でも最大級であることから、本墳に葬られた人物は六呂瀬山1号墳に代表されるような越前の大首長の影響下にあり、武鱗(丹南)盆地の広範圏を支配した人物と推測されます。

越前(九頭竜川水系)における主要古墳の分布状況

